

ハードウェアブレーク(PBC)機能なしMCUのデバッグ方式による設定説明

(H8/300H シリーズでの設定例にて説明)

1. 変数ウォッチのみでのデバッグ方式

1-1) 変数ウォッチでSCI割り込みを使用しない。

<オプション>—<CPU設定>

モニタワークエリアの場所【○：設定可 △：条件あり ×：設定不可】		
スタック：size(46)		○

<オプション>—<CPU設定>

モニタワークエリアの場所【○：設定可 △：条件あり ×：設定不可】		
固定番地：adr(0xffef20)size(64)	内蔵RAMの先頭から64byte空ける	△
	オンザフライ処理で割り込みを使用しない	<input checked="" type="checkbox"/>

<オプション>—<環境設定>

	ソース(RAM)有効[SBREAK()を使用 内蔵RAMは64byte使用]
<input checked="" type="checkbox"/>	ソフト(RAM)有効[SBREAK()を使用しない]

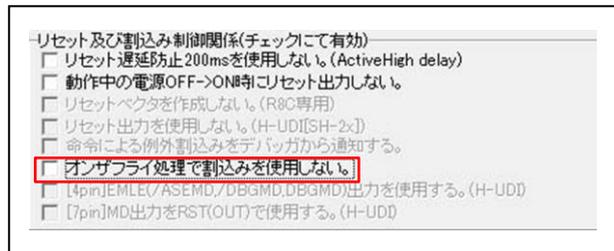
1-2) 変数ウォッチで SCI 割り込みを使用する。

<オプション>—<CPU 設定>

モニタワークエリアの場所【○：設定可 △：条件あり ×：設定不可】		
スタック：size(46)	設定不可	×

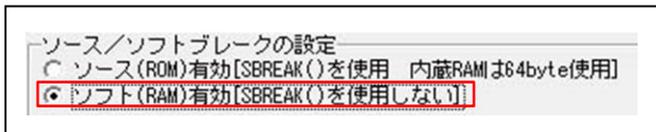
<オプション>—<CPU 設定>

モニタワークエリアの場所【○：設定可 △：条件あり ×：設定不可】		
固定番地：adr(0xffef20)size(64)	内蔵 RAM の先頭から 64byte 空ける	△
	オンザフライ処理で割り込みを使用しない	□

<オプション>—<環境設定>

	ソース(RAM)有効[SBREAK()を使用 内蔵 RAM は 64byte 使用]
✓	ソフト(RAM)有効[SBREAK()を使用しない]

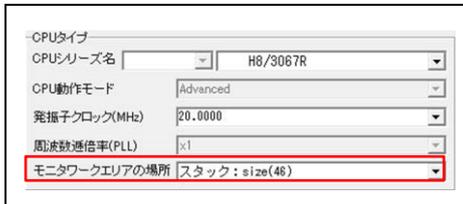


## 2. ソースブレークを使用するデバッグ方式

2-1) 変数ウォッチで SCI 割り込みを使用しない。

&lt;オプション&gt;—&lt;CPU 設定&gt;

モニタワークエリアの場所 【○：設定可 △：条件あり ×：設定不可】		
スタック：size(46)		○



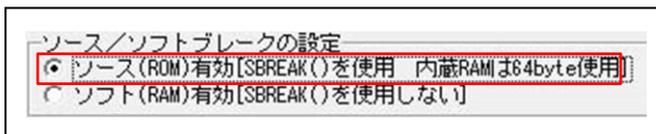
CPUタイプ  
 CPUシリーズ名 H8/3067R  
 CPU動作モード Advanced  
 発振子クロック(MHz) 20.0000  
 周波数乗数(PLL) x1  
 モニタワークエリアの場所 **スタック：size(46)**

&lt;オプション&gt;—&lt;CPU 設定&gt;

モニタワークエリアの場所 【○：設定可 △：条件あり ×：設定不可】		
固定番地：adr(0xffef20)size(64)	設定不可	×

&lt;オプション&gt;—&lt;環境設定&gt;

✓	ソース(RAM)有効[SBREAK()を使用 内蔵RAMは64byte使用]
	ソフト(RAM)有効[SBREAK()を使用しない]



ソース/ソフトブレークの設定  
 ソース(RAM)有効[SBREAK()を使用 内蔵RAMは64byte使用]  
 ソフト(RAM)有効[SBREAK()を使用しない]

2-2) 変数ウォッチで SCI 割り込みを使用する。

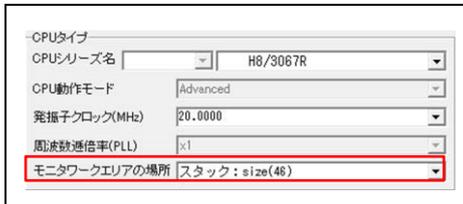
&lt;使用できません&gt;

### 3. プログラムをRAMでのデバッグ方式

3-1) 変数ウォッチでSCI割り込みを使用しない。

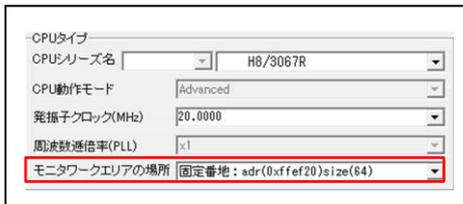
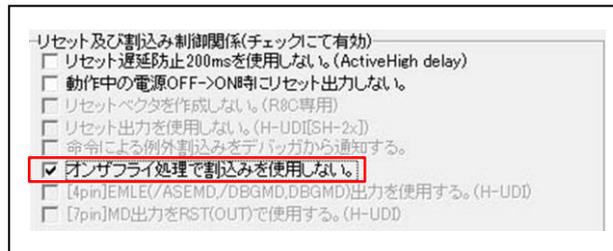
#### <オプション>-<CPU設定>

モニターワークエリアの場所【○：設定可 △：条件あり ×：設定不可】		
スタック：size(46)		○



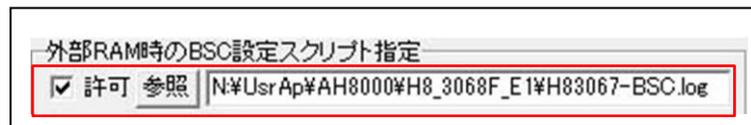
#### <オプション>-<CPU設定>

モニターワークエリアの場所【○：設定可 △：条件あり ×：設定不可】		
固定番地：adr(0xffef20)size(64)	内蔵RAMの先頭から64byte空ける	△
	オンザフライ処理で割り込みを使用しない	<input checked="" type="checkbox"/>

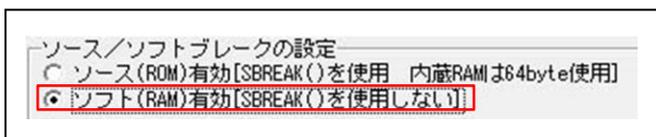
#### <オプション>-<CPU設定>

外部RAM時のBSC設定スクリプト指定【○：設定可 △：条件あり ×：設定不可】		
<input checked="" type="checkbox"/> 許可	BSC設定スクリプトファイル[*.*log]を指定する	○



#### <オプション>-<環境設定>

	ソース(RAM)有効[SBREAK()を使用 内蔵RAMは64byte使用]
<input checked="" type="checkbox"/>	ソフト(RAM)有効[SBREAK()を使用しない]



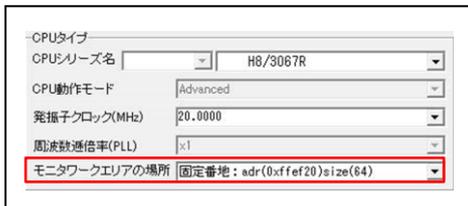
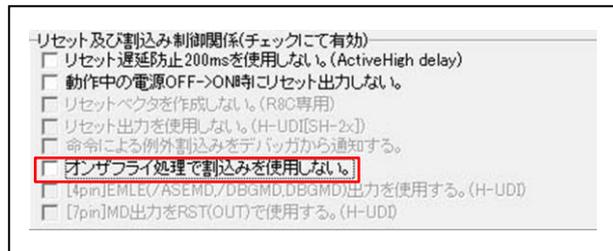
3-2) 変数ウォッチで SCI 割り込みを使用する。

<オプション>—<CPU 設定>

モニタワークエリアの場所【○：設定可 △：条件あり ×：設定不可】		
スタック：size(46)	設定不可	×

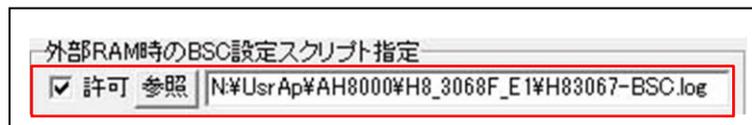
<オプション>—<CPU 設定>

モニタワークエリアの場所【○：設定可 △：条件あり ×：設定不可】		
固定番地：adr(0xffef20)size(64)	内蔵 RAM の先頭から 64byte 空ける	△
	オンザフライ処理で割り込みを使用しない	□

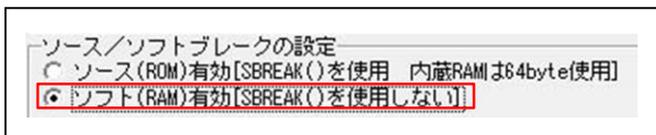
<オプション>—<CPU 設定>

外部 RAM 時の BSC 設定スクリプト指定【○：設定可 △：条件あり ×：設定不可】		
<input checked="" type="checkbox"/> 許可	BSC 設定スクリプトファイル[* .log]を指定する	○



<オプション>—<環境設定>

	ソース(RAM)有効[SBREAK()を使用 内蔵 RAM は 64byte 使用]
<input checked="" type="checkbox"/>	ソフト(RAM)有効[SBREAK()を使用しない]



#### 4. 注意事項

- 本文書の著作権は、エーワン（株）が保有します。
- 本文書を無断での転載は一切禁止します。
- 本文書に記載されている内容についての質問やサポートはお受けすることが出来ません。
- 本文章に関して、ルネサス エレクトロニクス社への問い合わせは御遠慮願います。
- 本文書の内容に従い、使用した結果、損害が発生しても、弊社では一切の責任を負わないもの  
とします。
- 本文書の内容に関して、万全を期して作成しましたが、ご不審な点、誤りなどの点がありましたら弊社までご連絡くだされば幸いです。
- 本文書の内容は、予告なしに変更されることがあります。

〒486-0852

愛知県春日井市下市場町 6-9-20

エーワン株式会社

<https://www.aone.co.jp>

